

改善の基本方針及び改善の具体的事項は何か。

1 改善の基本方針

○ 家庭科，技術・家庭科については，その課題を踏まえ，実践的・体験的な学習活動を通して，家族と家庭の役割，生活に必要な衣，食，住，情報，産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに，それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視する観点から，その内容の改善を図る。

その際，他教科等との連携を図り，社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを特に重視する。

(ア) 家庭科，技術・家庭科家庭分野については，自己と家庭，家庭と社会とのつながりを重視し，生涯の見通しをもって，よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から，子どもたちの発達の段階を踏まえ，学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る。

(イ) 技術・家庭科技術分野については，ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに，よりよい社会を築くために，技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視し，目標や内容の改善を図る。

○ 社会の変化に対応し，次のような改善を図る。

(ア) 少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し，家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図るため，食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実するとともに，社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から，消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。

(イ) 持続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し，技術と社会・環境とのかかわり，エネルギー，生物に関する内容の改善・充実を図る。また，情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し，安全かつ適切に技術を活用する能力の育成を目指す指導を充実する。

○ 体験から，知識と技術などを獲得し，基本的な概念などの理解を深め，実際に活用する能力と態度を育成するために，実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また，知識と技術などを活用して，学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために，自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実する。

○ 家庭・地域社会との連携という視点を踏まえつつ，学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容の改善を図る。

2 改善の具体的事項

- これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する観点から、次のような改善を図る。

(家庭分野)

- 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習を通して、中学生としての自己の生活の自立を図り、子育てや心の安らぎなどの家庭の機能を理解するとともに、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成を重視することとし、次のような改善を図る。
 - (ア) 小学校の内容との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図る視点から、①家族・家庭と子どもの成長、②食生活の自立、③衣生活と住生活の自立、④家庭生活と消費・環境に関する内容で構成し、すべての生徒に履修させる。その際、学習した知識と技術などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的な態度をはぐくむ視点から、家族・家庭や衣食住などの内容に生活の課題と実践に関する指導事項を設定し、選択して履修させるようにする。
 - (イ) 社会の変化に対応し、次のような改善を図る。
 - a 家庭の機能を理解し、人とよりよくかかわる能力の育成を目指した学習活動を一層充実する。また、幼児への理解を深め、子どもが育つ環境としての家族と家庭の役割に気付く幼児触れ合い体験などの学習活動を更に充実する。
 - b 食生活の自立を目指し、中学生の栄養と献立、調理や食文化などに関する学習活動を一層充実する。家庭生活と消費・環境に関する学習については、他の内容との関連を明確にし、中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動を更に充実する。
 - (ウ) 家庭に関する教育を体系的に行う視点から、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容を設定するとともに、他教科等との関連を明確にし、連携を図る。